

第7回小郡市まちづくり条例作成委員会 要録

令和4年1月19日

1. はじめに	
委員長	あいさつ
2. 議事	
(1) 条例作成のスケジュールについて	
事務局	スケジュールに関して、前回の委員会のご意見をふまえ、9月議会上程で組み直したい。
委員長	スケジュールの変更について、提案があったがいかがか。異論がないのであれば承認したい。
(2) 条例(案)について	
委員長	<b>第3条(定義)について</b> 条例案第3条で、「市民…居住・通勤～あらゆる個人または団体のことをいいます。」となっているが、そもそも市民の定義は何か。
委員	今の案だと、過去の人(以前小郡に住んでいた人や、本籍地が小郡の人など)は含むのか?今の条文は現在の人だけになっている。
事務局	例えば、ふるさと納税もまちづくりの担い手の1人だと考えている。元々住んでいた人(=ふるさと住民)、住んでないけど支援する(=応援住民)という言い方もあり、この辺りも網羅できるようなものになれば。
委員	定義の中に「市」がない。「議会」は入る?除く?
事務局	議会も市民として捉えている部分もある。市民=あらゆる人の中に、市も議会も含む。その中で、まちづくりのポイントとして、条例には「地域コミュニティ」や「市民活動団体」をあげている。 『自治』をどうするか?という内容の条例であれば、議会が出てくるが、今回の条例は『市民活動』をどうしていくかというもので、条例の位置付けが少し異なる。これは、地域コミュニティを推進していくためのもの。
委員	例えば、市民文化会館を建設するような場合に、この条例が使われるのか?
事務局	今回の条例は「小郡の人、また小郡と関りがある人がどういう条例があれば活動しやすいか?気持ちいいかな?どういう関係性を作り、どういう場があれば…」というもの。そのため、施設建設の際に使ったり、将来的に自治基本条例として使ったりというようなことは想定していない。自治基本条例とは全く別のもの。
委員	“まちづくり”というと、広い意味で捉えられがち。共通認識が大事。

委員	それが分かるようなタイトルを。(配布された) ビジュアルの図を上手く使えば。今回の条例は、都市計画的なハード面ではなく、ソフト面のもの。そこをタイトルなどで識別できるようにする必要がある。
委員	前文の「アイデンティティ」という言葉の意味が難しい。下の解説があるから分かるが、言い換えがないか。
委員	<b>第3条(定義)について</b> 「地域コミュニティ」という表現が分かりづらい。もっと分かりやすい表現がないか。「市民活動団体」と何が違うのか分からないのでは。
委員長	「地域コミュニティ」は、小郡でいえば自治会や、校区の協議会などだと思うが、この言葉自体が割と行政の言葉。そうすると、協働も分かりにくいかもしれない。「地域コミュニティ」を他の言葉で言い換えるなら何か。
委員	地縁団体、地域共同体、地域団体など。ただ自分は「地域コミュニティ」という言葉がすんなり入ってくる。
委員	「地域コミュニティ」という言葉で押し通してもいいのでは。きちんと定義付けも出来ている。
委員	<b>前文について</b> 「旧石器時代」という表現に違和感があるので変えてほしい。また、久留米の条例にはしっかりと課題や社会背景がある。前文に課題が少しは書いてないと、何のために作っているか分からない。数行でも課題を明記すべき。今の前文では削除しすぎているのでは。
委員長	今の条文だと「多様性を～求められるのは」の部分しか課題がない。
委員	条例の中身が具体的にしなければなるほど、そこに入らない人や組織が出てくる。具体的過ぎるのもどうなのか。
委員	ふわっとしてる良さもある。市民の中には、様々な理由で頑張れない人もいる。「出来る人がする。頑張れる人が頑張る。出来る範囲で。」など漠然としてるのも、条例として正しいかは分からないが、良さがあると思う。
委員長	その辺のバランスが大事。
委員	手に取った市民がどう感じるか、どう捉えるか…条例がどんなものかよく分かるようなタイトルが大事。サブタイトルをつけるのかなど、考えた方がいい。
委員長	(配布された) 模式図が分かりやすい。これを使うとか。
委員	「多様性」という言葉ではまとめられない。また「思いやり」という言葉には、少し上からな印象を受ける。
3. その他	
	特になし

4. 連絡	
事務局	第8回 会議日程 3月22日(水) 19時00分～
5. おわりに	
副委員長	あいさつ